



打撃練習で明石商投手陣への対応を確かめる八学光星ナイン。9日、大阪府豊中市

左腕を警戒 打撃練習

光星あす初戦 調整最終盤

第100回全国高校野球選手権で、本県代表の八学光星ナインは9日、大阪府豊中市の豊中ローズ球場で、11日の初戦で対戦する明石商の投手陣を想定した打撃練習に時間を割いた。主に左腕加田が放る、切れのある変化球を強く意識。好投手ぞろいの明石商の攻略へ向け、光星打線の調整は最終盤を迎えている。

【関連記事22面】

光星ナインは守備練習を早々に切り上げ、ピッチングマシンやベンチ外の投手を相手に1時間弱ほど、打撃練習に力を注

いだ。光星打線が警戒するのは、変化球の制球が光る左腕加田。西兵庫大会は主戦福谷より多い5試合約35イニングに登板

光星 甲子園だより

成田 太一 投手(3年)



幼少期に器械体操をやっていたおかげで柔軟性は抜群のサウスポー。ベンチプレスはチームトップの120キを上げるパ

いつでも投げられる

「ランナーを出しても無失点に抑える」粘り強い投球が持ち味。県大会ではベンチを外れたが甲子園で背番号11を授かった。今季の公式戦初勝利を甲子園で飾りたい。(大阪府・玉手中出身、172センチ、71キロ、左投げ左打ち)

初優勝の立役者となった。打撃練習では左投手が放るカーブ、スライダーなど変化球への対応を確かめた。主将長南は「膝下に来るボール球を見極められれば、必ず甘い球が来る」と話していた。(佐々木大輔、高松拓輝)